

生活支援部会 こどもワーキンググループ

部会長 飯ヶ谷

第一回 令和5年8月24日

- (1) いちごの会の活動について
- (2) 事例検討について
- (3) 学校との連携方法について
- (4) 市内通所事業所の空き状況について
- (5) 基礎調査結果報告について
- (6) その他

第二回 令和5年12月21日

- (1) 医療的ケア支援法に関する確認等について
- (2) 医療的ケア児等に関する課題の整理について
- (3) 医療的ケア児等に対する取り組み状況について
- (4) 医療的ケア児等の災害対策について
- (5) その他

第三回 令和6年2月28日

- (1) 市内新規事業所挨拶
- (2) 安全計画についての情報提供
- (3) 地域課題の意見に対する情報提供
(医療的ケア児への災害支援、移動支援)
- (4) 来年度の取り組みの検討
- (5) 来年度の回数・開催時期・委員について
- (6) その他

第一回内容**【いちごの会の活動報告について】**

- ・白井市こども発達センターに通う親の会として平成20年に発足。
- ・現在32名在籍(小学校低学年までの保護者多い)
- ・活動は社会人や高校生の親が中心になっている。
- ・策定委員会、自立支援協議会、しろいこどもプランに出席している。
- ・名簿の整理やメンバー交代していきたい。
- ・対象をこども発達センター利用保護者以外に広げるには、規約等を整理する必要がある。

【困難事例】2事例**共通の問題点**

- ・家族支援の重要性
- ・母親だけではなく、父親の参加を促す支援の必要性（ペアトレなど）
- ・思春期の意思決定支援への課題、本人のしたい事と身の安全とのバランス

【学校との連携について】

- ・相談員が学校に連絡する場合は、基本は教頭先生に連絡。内容によっては、担任か特別支援コーディネーターが窓口になる。
- ・福祉と教育との連携は課題。放課後等デイサービスの中身を知っている教員は少ない。顔の見える関係作りがあると良い。

【市内通所事業所の空き状況について】

- ・ここ数年で市内の事業所が増えた。
- ・放課後等デイサービスによっては、特別支援学校までの送迎が難しいところもある。
- ・報酬改定（延長支援加算等）があるので、制度を注視していく必要あり。

【基礎調査結果について】

- ・朝の支援が少なく、仕事に行けないという声がある。
（預け先がなく仕事を辞めたケースもある）
- ・医療的ケア児の短期入所のニーズあり。

第二回内容

【医療的ケア支援法に関する確認等について】

- ・医ケア児支援法はできたものの、国県の財務負担なども明確ではない。また、学校や保育園に看護師を置くには、難しい課題がある。
- ・白井市では、医療的ケア児等コーディネーターをR5年4月から配置。
- ・協議の場は年2回、自立支援協議会の生活支援部会こどもWGとして開催。

【医療的ケア児等に関する課題の整理について】他市の課題を抽出し課題を整理

- ・白井市近隣に短期入所がない。千葉県医療型短期入所開設支援事業の活用を検討中。1か所、介護老人保健施設で反応があった。
- ・医療的ケア児受け入れ体制の問題で、吸引指導・栄養管理等の研修にヘルパーが受けられるよう行政支援があるといい。
- ・看護師の配置の難しさ。（なり手の不足、離職率、単価の問題等）
- ・市内保育園（3園）は看護師不足による医療的ケア児等の待機児童はいない。

【医療的ケア児等に対する取り組み状況について】

- ・医療的ケア児等のリストを作成し、全数把握できるよう取り組んでいる。
- ・障害福祉課、健康課など、医療的ケア児の定義を揃えて情報を統一する必要あり。

【医療的ケア児等の災害対策について】

- ・印旛保健所から、白井市は3名、電源確保が必要なお子さんがいる。
- ・災害準備ノートは整備中。
- ・個別避難計画作成については、保健所は年1回くらいの関係で、福祉・医療・学校・行政が一体となって対策を考える必要がある。
- ・予備バッテリー不足時に、保健所に連絡しても対応は難しい。平時の時から電源確保に向けて整理する必要がある。(発電機の助成など)
- ・電源確保が必要な方には、ニーズを個別に聞き取り検討していく。

第三回内容

【安全計画の情報提供について】

- ・現在、市から事業所へのお知らせはバイタルリンク経由で流しており、バイタルリンクを使っていないフラットには郵送でお知らせしている。この方法で、子どもWGからのお知らせが出来るので、障害福祉課から連絡。

【地域課題の意見に対する情報提供】(医療的ケア児への災害支援、移動支援)

- ・医ケア児の災害支援(バッテリー、蓄電池等の給付)については、いったん事務局を通して提言書を全体会へ提出してもらいたい。全体会の1週間前位(3月14日まで)には提出してほしい。
- ・移動支援については、まずは子ども部会などで学校へ行けないケースを集めて、議論を始めるのがよいか。単純ではないが、声が時々上がるので検討してもよいか。

【子どもWGとして、来年度の取り組みの検討】

- ・教育と福祉との連携、放課後等デイサービス見学ツアー、ガイドブック作成など、他市町村の自立支援協議会が取り組んでいる参考資料あり。
- ・放課後等デイサービス見学ツアーについては、教育支援課の賛同あり。
- ・こども発達センターと地域の通所事業所が連携して、事業所の職員のスキルアップ等やインクルーシブが促進されるような支援等、子どもWGが取り組みをサポートしていくのはどうか

【まとめ】

第一回

- ・福祉(放課後等デイサービス)と教育(学校)との連携を強化できるよう自立支援協議会でサポート出来るとよいか。
- ・医療型短期入所が可能な場所を広げていけると、医療的ケア児等の家族支援の拡充(レスパイト先の選択場所が増えるなど)

第二回

- ・吸引・経管栄養などの医療的ケアの研修体制の整備があると良い。
- ・看護師配置の必要性は今後も検討か。
- ・個別避難計画作成に向けて、関係機関と協力しながら進めていく。

第三回

- ・医ケア児支援連絡会は、子どもWGの下部組織として、現場レベルの医療的ケア児支援連絡会を開催し、今後医療的ケア児と家族の現状や支援策について具体的に進め、その内容を子どもWGに上げ精査してもらう形にしていく。
- ・医ケア児支援連絡会はぼろりすの協力も得ながら進めていく。
- ・日常生活用具の給付に発電機等を入れる旨の提言書の作成を進める。
- ・子どもWGは、来年度の取り組みは、こども発達センターと地域の通所事業所との連携強化をサポートしていけるとよいか。回数は今年度と同じ2回とし、必要に応じて追加していく。事務局会議にて長期的な見通しを踏まえながら来年度の取組みを検討、それに合わせて回数を決める。
- ・来年度の委員は、保育課、未就学のお子さん（児童発達支援）とのつながりのある人、障害・保育の分野に精通していて制度的なものも把握しているような学識経験者がいるとよいという意見が挙がった。

飯ヶ谷部会長

- 今年度は全3回開催（医ケア児支援連絡会含む）。父親を含む家族支援の重要性、教育機関との連携、医療的ケア児等に関する課題や取り組みについて、地域課題について等の協議を実施した。
医療的ケア児（者）への災害時等支援として、日常生活用具の拡充に関する提言書を作成した。

課題

- 福祉と教育の連携について、次年度以降も継続して協議を実施する必要がある。
- 医療的ケア児にもインクルーシブ教育を提供するために、保育園等に看護師を配置していくことが必要。
- 医療的ケア児について個別避難計画の作成が早急に必要。
- 地域生活支援拠点コーディネーターを早期配置し、サービス提供事業所職員への人材育成の実施、質の向上等が必要。